

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093300079
法人名	社会福祉法人 北筑前福祉会
事業所名	宗寿園グループホーム愛々
所在地	福岡県宗像市稲元5-2-2
自己評価作成日	平成23年11月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年11月27日	評価結果確定日	平成24年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・同じ敷地内にある、福祉センター「宗寿園」の行事(演劇や舞踏の発表会等)に月1～2回程度参加して楽しんでいる。福祉センターを利用されている近隣の方々とも顔見知りができ交流を深めている。又年1回ある宗寿園夏祭りに参加し地域の子供達との交流もある。 ・施設近隣にはスーパーマーケットも多く、週2～3回は利用者と共に日常品の買物に出かけている。 ・年1～2回外出行事を企画し、御家族にも参加して頂き、親睦の機会となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中央公園や市民体育館に隣接する場所に位置し、近隣には小・中学校や新興住宅地、スーパー等があり、利便性も高い。敷地内には宗像市より移譲を受け、同法人が運営する老人福祉センター宗寿園があり、建物1階にはデイサービスセンター、ホームが位置する2階には認知症デイサービスが併設されており、連携や交流をサービスの向上に活かしている。 年間を通じて様々な行事が企画されており、中でも入居者全員と多くの家族が参加するバスハイクが実現し、つながりを深めながら、思いで作りが行われている。また、秋刀魚を七輪で焼いたり、鯛のあら炊、生地から作るピザ等、「食」を楽しむ機会も充実している。看護師による日々の健康管理や気づきは、看護申し送りノートにより共有され、介護計画の中にも位置付けられている。また、日常の様子を把握しているため、医師との連絡や調整を密に行い、医療との連携体制を機能させながら、本人、家族にとって安心できる環境作りが行われている。
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	○経営理念である『共生』を基本とし『素敵 な笑顔で和気愛々』を運営方針に掲げている。	法人としての理念のもとに、ホームとしての運営方針を示している。 思いで作る 美味しい食事 健康で楽しく、と示された運営方針の実践に向けて、様々な取り組みが行われていることが確認できる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	○近隣の店への買物を行っている。 ○隣接する老人福祉センターを利用する事により地域住民と接する事が出来る	敷地内に隣接する老人福祉センター宗寿園は、宗像市より移譲を受けた母体法人が運営を行っており、様々な催物を鑑賞したり、地域住民との交流を行っている。また、区長より地域情報を頂き、運動会では入居者の方々の席も用意される等、地域との交流を積み重ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	○地域住民に向けた認知症の勉強会やグループホームとは？又他の施設はどんな施設(施設の紹介)等の情報を提供している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○推進委員さんよりの助言、地域の子供たちとの関わりの橋渡し(民生委員、自治会長さんの協力)	運営推進会議は、家族代表、区長、民生委員、行政担当者、包括支援センター職員等の参加を得て、定期開催されており、来年度からは入居者の参加が予定されている。ホームの活動報告や、地域情報を頂きながら意見交換を行い、運営に反映させるよう努めている。職員が、持ち回りで会議に参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	○運営推進会議、地域密着会議を利用しながら協力関係を築いている。	事業者が主体となる地域密着型会議には、毎月、アドバイザーとして行政担当者の出席を得ており、意見交換や情報共有を図りながら、顔の見える関係の中で、相互の働きかけが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○研修等に参加し意識を高め、日頃より話し合いをし、職員間の連携を図り、拘束をしないケアに取り組んでいる。	行政の主催する研修に参加し、内部研修にて伝達が行われている。ホームは2階部分に位置し、エレベーターの使用制限は行われていない。今後は、身体拘束に関する委員会活動を定期的に行う予定としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	○支援のなかで、気付いた事があれば、その場で話し合うようにしている。		

福岡県 宗寿園グループホーム愛々

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	○研修会、講習会に参加し知識を深めるなどの取り組みを行ない、必要とする方には、すぐに対応出来るように支援体制をとっている。	行政主催の研修や、法人全体の研修に参加し、ホームでの伝達を行っている。権利擁護制度に関するポスターが掲示されている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○見学、電話での問い合わせが気軽に出来るように窓口を設けている。利用者、家族等が不安や疑問に思う点については、十分な説明を行ない理解、納得を得た上で契約に及んでいる。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○運営推進会議を年6回開催し家族に参加して頂き意見、要望等を伺っている又、家族会を年2回開催し懇親会を兼ねて意見の交換会もされている。要望を伺い頂いた要望、意見には迅速に対応している。玄関に意見箱を設置している。	年2回、家族会行事として食事会やバスハイクを行っている。多くの家族と入居者全員が参加し、職員も含め、つながりを深める機会となっている。遠方に住む家族が来訪された時には、特に十分に時間をとり、意見や要望を聴取し、情報を共有している。家族が来訪する機会が多い。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○毎月のミーティングや年1、2回のフリートーキング等を実施し意見を述べる機会をもうけている。常勤、非常勤一緒に月担当を決め行事等の企画にアイデアを出し合い全職員になげかけている。	全体会議やミーティング、自己評価の際の個人面談等にて、職員意見を収集している。また、年1、2回、ホーム内でフリートーキングを行っている。改善提案書が用意され、職員意見を積極的に収集している。利用者・看護・業務の各申し送りノートが整備され、情報共有を丁寧に行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	○年2回自己評価の場が設けられており各自、目標を掲げ、一人ひとりが向上心を持って働けるようにつとめている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	○平等な人選が行われており、差別等はない。採用された職員は本人の持つ能力、特技等を発揮出来る場をもち活躍してもらっている。資格取得、研修などに積極的に取り組んでもらい質の向上にも力をいれている。	常勤職員も多く、各職員の状況にも配慮しながら、雇用条件を決めている。法人として、資格取得に向けた受験対策として勉強会を実施したり、研修参加へのサポート等、積極的にスキルアップを支援している。行事の企画等、各業務の担当や運営推進会議への参加を持ち回りで行い、能力の発揮や質の向上に取り組んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	○法人の基本理念に「人権を尊重し、人としての尊厳の確保」を掲げており、ご本人の人権を尊重し尊敬の念を持って接している。職員に対しても人権教育や研修に参加してもらう事に積極的に取り組んでいる。	法人としての人権研修が行われている。法人としての基本理念として、人倫の尊重と人としての尊厳の確保を第一義に安心と自立を支援していくと謳われている。	

福岡県 宗寿園グループホーム愛々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○随時、研修や講演会の情報を掲示、閲覧し、法人内外の研修を受ける機会が設けられている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○2ヵ月に一度「地域密着型サービス事業所連絡会」に参加しており、連携をとる機会となっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	○管理者、ケアマネジャーが主となり、それまでの本人の生活背景を考えながら、本人の意思を尊重し話しをするようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	○家族からは、十分に話しを聞き現在の状況を把握すると共に、思い・訴えを受け止めるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○状況に応じた支援が出来るようにアドバイスを行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	○一方向の関係で支援するのではなく、利用者から学ぶ姿勢を忘れず信頼関係を大切にしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	○家族からの思いを伺いながら、職員の思いを伝え、一緒に本人を支えていくという協力関係を作っていくように努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○電話・手紙・年賀状など、良い関係を継続出来るように支援している。	郷土の唄を歌ったり、郷土料理をメニューとして採り入れている。家族が来訪する機会も多く、そのつながりを大切に支援している。お墓参りや、これまでの職歴からくる関係性の継続を支援している。	

福岡県 宗寿園グループホーム愛々

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	○家事活動の機会に体験や思いを話していただき関わっている。外出・買物を一緒に行動する事により良好な関係を築いている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	○転居先への面会、死去された際のお通夜又は葬儀への参列を行っている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○担当者会議や会話などえお通し暮らし方の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は本人の普段の言動を観察、家族と情報交換しながら検討している。	入居時に、家族の協力も得ながら、センター方式のシートを活用した情報収集が行われている。日々の記録には、客観的情報に加え、主観的反応についても記載が行われており、日常の様子が伝わりやすい。職員ヒアリングからも、共有が図られている事が確認できる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○入所時にはセンター方式の用紙に家族に記入していただいている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	○職員間で情報交換を行いながらバイタルチェックや活動等を通して変化がみられないか把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	○月1度のミーティング等、又適宜カンファレンスを行い、各利用者の状態、状況を話し合いその結果をふまえケアマネが計画を作成している。必要に応じて家族と担当者会議を実施している。	本人、家族、医療関係者の意見を踏まえ、家族や看護師の役割等が計画に示されている。3ヶ月ごとに、計画作成担当者・各担当者を中心とするモニタリングが行われ、見直しへつなげている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○ケース記録の他ノートでの伝達、モニタリングのほか必要時(心身の変化)にはカンファレンスを行い見直しに努めている。		

福岡県 宗寿園グループホーム愛々

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	○一人ひとりのペースに合わせたり、その日の天気により外出など利用者の状態を見ながらその都度対応を考え取組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	○外出(買物、散歩)を行いながら残存能力を活用する事に努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○従来からの本人、家族とかかりつけ医との関係を尊重し、受診を継続していただいている。状態が変化した場合には家族へ報告し主治医へ相談していただいている。発熱や食欲不振・便秘など体調不良時には家族へ報告、受診を通して医師へ相談を行っている。状態によって薬に関する内容が含まれる時には、看護師が直接相談し指示を受けている	入居時に、かかりつけ医についての確認を行い、家族の協力を得ながら受診を支援している。職員として看護師が配置され、その役割が明確となっており、医師との連絡調整や、看護職としての申し送りノートが整備される等、医療連携体制が機能している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	○看護師へ連絡・相談・報告を行い、連携を図っている。医療連携体制をとっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	○入院時は日常の情報を提供し、主治医や病院と連絡を密にとり、早期退院に向けて話し合いを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	○医療機関と連携を図り、事業所で出来る範囲での対応を行なっている。	入居時に、医療連携体制加算に係わる指針をもとに、看取りに関する方針を説明し、同意を得ている。状況の変化に応じて、医療関係者を交えて話し合いを重ね、その都度の意向確認と、方針の共有を図っている。看取りに関する、外部研修に参加し事業所の体制について検討されている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	○緊急時のマニュアルを作成し、目のつくところに用意している。		

福岡県 宗寿園グループホーム愛々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	○避難訓練を実施している。消防署、地域の消防団の方々と共に夜間想定避難訓練を実施している。	年2回、避難訓練を実施しており、消防署、地域消防団の参加を得て、夜間想定訓練も行われている。敷地内に福祉センターがあることから、運営推進会議では、地域の防災拠点としての役割や、実際に夜間訓練を実施することが検討される等、活発な意見交換が行われている。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	○尊敬の念を持ち、その方に応じた声掛けを各自、実践している。又、利用者の立場に立って考えプライバシーが守られるよう気をつけている。	日常の様々な場面において、選択できる場面を設定し、自己決定を促している。また、プライバシー空間としての居室作りに配慮している。トイレ誘導の際には、さりげない声かけや対応を心がけている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	○出来るだけ1対1で話しが出来る時間を作り、本人の思いが伝えやすい場を作っている。選ぶことが難しくなってきた方へ2つの中からどちらがいいか尋ねたり工夫している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○一人ひとり体調やペースを見ながら休息をとったり、家事を手伝ってもらったりなどしている。どのように過ごしたいかなどは本人に聞いておらず、今後は本人に確認しながら一緒に一日の過ごし方を考えていきたい。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	○出来るだけご自分で整容してもらえるよう鏡の前に立っていただき、髪をとかして頂いている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○全利用者の参加は困難であるが、個々に出る事を職員が把握しており、食事の準備、片付けに参加していただいている。秋刀魚や鯛のアラ炊き等在宅時と同じものを提供し、味覚や懐かしさを回想し、満足していただいている。	食材の買い物に同行してもらったり、下ごしらえに力を発揮してもらっている。様々な郷土料理や、七輪で秋刀魚を焼いたり、生地からピザ作りを行ったりと、「食」を楽しむ機会は多い。また、外出に出かけたり、その季節には鰻の出前を注文する等の楽しみもある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○食事・水分共に摂取量をチェックし、記録している。食欲のない方、摂取量が少ない方へは、ご本人が食べ易い物、食べれる物を提供している。		

福岡県 宗寿園グループホーム愛々

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	○ご自身で出来る方以外はリビングの洗面台に歯ブラシを置いて毎食後声掛けから、見守り、一部介助の方まで対応している。義歯装着者には外していただきブラッシングや夜間入れ歯洗浄剤にて除菌洗浄している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	○出来る限りトイレで排泄が出来るように誘導している。(必要に応じて排泄チェックを行っている)	個別の状況や必要に応じて、排泄チェックを行っており、排泄パターンや間隔を把握し、さりげない声かけにてトイレ誘導を行っている。また、食事や飲み物にオリゴ糖を使用し、出来る限り薬に頼らなくて済むよう、便秘予防に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	○お茶・オヤツ、食事作りにオリゴ糖を使い便秘の改善をしたり、工夫している。海草寒天ゼリーも提供している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	○「毎日入りたい」と希望のある方は、毎日入浴され、出来る限り本人、家族の希望を聞くようにしている。	毎日入浴準備を行い、その日の希望や状況に柔軟に対応している。眺めの良い浴室には、大きな浴槽と個浴槽が設置されており、併設事業所との共用となっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	○ケアプランに準じて休息の必要な方へは都度休息を促している。その他の方に対しても活動の後や本人様子を観察しながら休息を促している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○看護師からの申し送りやカルテ等を職員が把握して理解に勤めている。看護ノートを活用し、支持や報告を連携している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	○それぞれの好きな事を職員が把握して趣味などが継続的に出来るよう支援している。四季折々の風物詩を直筆して戴いたり、外出にて季節感を醸し出している。		

福岡県 宗寿園グループホーム愛々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	○「買物に行きたい」と希望があればその都度出掛けられるようにしている。又、ご家族にも外出をお願いするなどして可能な限り外に出れるよう努めている。	個別や少人数での外出や外食、買い物に出かけたり、家族ともに外出する機会を支援している。敷地内にある老人福祉センター宗寿園での舞踏鑑賞や家族とのバスハイク、地域の伝統行事、季節の花見等、外出の機会も多い。隣接して中央公園が位置しており、季節の彩りや変化を楽しみながら、散策を行うことが出来る。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○数名だが、ご自分でお財布を持ち、御家族、職員と一緒に管理している。外出時には、ご自分で支払いされ出来る事を継続していただけるよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○電話の希望がある方は電話される。携帯電話を持っておられる方も居られ、時折ご自分で電話をかけることもある。遠方のご家族には手紙を出されたり届いた手紙の返事を書かれたりしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○不快感や混乱等をまねくような空間にしないように努めているが、生活感にはまだ足りない面もあるかと感じる。季節に応じたディスプレイ(利用者で製作したもの)をリビングに装飾している。	広いリビングから対面式のキッチンへとつながる、明るく、開放的な空間には、ゆとりを持って食卓やソファが置かれ、くつろぎの場所となっている。また、季節の飾り付けがさりげなく施され、落ち着いた雰囲気となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○居室でくつろぐ時間を大切にする為に目隠しとして入口に暖簾等してプライバシーの配慮に努めている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○使い慣れた物(タンス等)を持ち込まれていたり、冷蔵庫・テレビを設置されている方も居る。	冷蔵庫やテレビ、掃除道具、携帯電話等、その方にとっての日常の暮らしに必要な品々が持ち込まれ、家族との写真等が飾られている。プライバシー空間としての位置付けや、居心地の良さ、安心感への配慮が行われている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○理解できなくなってきた方には目に止まる程度の貼紙をしたり、ボタンなどの横に説明を少し書いたり工夫しながら理解しやすいようにしている。		